

---

# 誤字

夕焼け

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

誤字

### 【Nコード】

N5486G

### 【作者名】

夕焼け

### 【あらすじ】

人は経験の増大と共に、自身の行動を経験則に縛られていくようになる。ものを表現する人間にとってこれは最も厄介な敵であると言えるだろう。

まずちょっと見て欲しい。

これはつい先ほど僕がネット上だけの友達である頭もこもこシヨタ野郎に送ったメッセージだ。

「君に一つ教えておきたい事がある。

男ってというのは、それをする前に「するぜえ！いいかい？」なんて事を使っちゃいけない。

そんな事をいうのは、いけてない。

だが、

「した。いいよね？」なら使ってもいい。」

注目して欲しいのは、「なんて事を使っちゃいけない」の部分だ。

そう、これはもちろん「なんて言葉を使っちゃいけない」かもしくは「なんて事をいっちゃいけない」と言おうとしたのだ。

なんでこんな救いがたいレベルの誤字をするのかって、それは最初「なんて言葉を使っちゃいけない」で文章を打って、そのうちに「なんて事をいっちゃいけない」にしたほうが、後々の文章にうまく作用するんじゃないかって思って、でも実際はそこについては「なんて言葉を使っちゃいけない」でも「なんて事をいっちゃいけない」

でも後の文章に与える作用に1ミリの差もなく、なのに僕はそんな勘違いをして文章を途中で訂正しようとする。

が。

その訂正の途中でなんかもう自分の書いた文章読み返すのがめんどくなくて、そのまま続きを書き出してしまっ。

こういう種類のちくはぐな文章って、ゲームのレビューサイトに投下された小学生のレビューによく見られる。

小学生が何故そういう間違いをし、年齢とともにそういう間違いが少なくなるのか、ちょっと分かった気がする。

小学生っていうのは、語彙の少なさをカバーするために自分の言葉を伝える為の試行錯誤をしようとする。

書いた文章を途中まで消して、また書き直す。

その途中までをもう一回けして、また書き直す。

そんな事を繰り返してるうちに上に書いたようなミスをしてしまうんだと思う。

そしてある程度年を重ねると、頭の中に「これから書くべき一本道の文章」を順序良くイメージできるようになるから、そういうミスが減るんだと思う。

でも、この「ミスが減る」というのはその変化の「好意的な側面」に過ぎない。

年を取るとそういう「文章を書くときのセオリー」を理解して、なかば無意識にそれに沿って文章を書くようになるため、小学生の頃

と比べて、文章を書く事に対して試行錯誤をしようとする姿勢を欠いていつてしまうのも事実だと思う。

だから、大抵の人の文章は年齢、経験の増加とともに、理路整然、分かりやすいけど、なんかイマイチつまんない文章になってしまう。その文章が現す内容、表現手順や文法は、読む前に容易に想像できてしまうからだ。

こういって、あらゆる事において言えると思う。

絵を描くときのセオリー、曲を作る時のセオリー、ある程度その正しい順序を知ってしまうと、その型に嵌ってしまう。

そういうセオリーを知らない初心者が熱意だけで、出鱈目なやり方で生み出すもののほうが、よほど人を惹きつけたりする。

4

小学生の文章は、その辺面白い。

僕の想像を超えた領域でそれらは綴られている。

そして、そこには伝えたい事柄に対する彼らの熱心な姿勢を垣間見る事ができる。

そういうものが、なんていうか単純に僕は好きだ。

上手く書かれた文章なんかよりもよっぽどね。

で、一番問題なのは、小学生ほどの前衛的な試行錯誤をするでもなく、なんとなく意味の分からない理由で小学生レベルのミスをする僕の頭の鈍さだ。

その僕の文章には「小学生の書くそれ」ほど強く訴えかけるものもないくせに、小学生レベルの間違いがこれでもかと満載されている。正直その事に対する弁明、つまり自己擁護をしたくてこの文章を書きはじめただけど、はっきり言って書けば書くほど弁明の余地がなくなってしまうた。

僕の知性はどうやら小4以下でした^q^

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5486g/>

---

誤字

2010年10月11日02時52分発行